

年 組 ( ) 名前

サイン

絶滅の恐れがあるギフチョウの南限地とされる川上村で、10年以上、公式に生息確認がされていないことが、村の「森と水の源流館」の調査でわかった。桜の時期に舞う優雅な姿から「春の女神」とも呼ばれ、村内の希少生物として村もPRしてきた。すみかの里山が人口減で荒れてきたのが要因ともいわれ、同館の担当者は「地域の再生を含めた環境改善が必要だ」と訴える。(中井将一郎)

かつて多数のギフチョウが目撃されていた村内の裏山。「葉が小さいなあ」。幼虫の餌となるミヤコアオイの葉を見た館スタッフの古山曉さん(40)がつぶやいた。4月15日、葉に卵が産み付けられていないかを確認しに来たが、痕跡はなく、チョウの姿もなかった。古山さんによると、村内では1990年代には自然に生息していたという調査報告があったが、2000年以降はなく、公式確認としては07年頃に撮影されたのが最後という。古山さんは19、20年の4月にも、生息報告のあった村内2か

◆絶滅の恐れがあるギフチョウの南限地・奈良県川上村で、10年以上にわたって生息が公式に確認されていないことが分かりました。

ギフチョウ南限地・川上村

「春の女神」復活へ 里山守れ



川上村で2007年頃に撮影されたギフチョウ(森と水の源流館提供)

所で現地調査したが、姿はなく、卵も確認できなかった。ギフチョウは里山生物で、手入れされた明るい林に生息するという。古山さんは調査結果を説明し、近年は放置林が増えて森が暗くなり、シカの増殖でミヤコアオイも食べられていると推測。「間伐などで森を手入れし、里山に人が戻って獣害を減らす、といった多方面の環境改善が大事だ」と訴えた。

ギフチョウ 黄色と黒の縦じまが特徴のアゲハチョウ科。羽を広げた大きさは約6センチと大型で、ソメイヨシノの開花期と同じ頃に羽化する。日本の固有種で本州のみに生息し、「生きた化石」とも言われ、環境省のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に分類。県内では御所市の葛城山で市の天然記念物に指定され、捕獲や幼虫の餌となるミヤコアオイの採取も禁止されている。

一方、村内のかつての生息地付近では、県外ナンバーの車が止まっているのが目撃されており、愛好家が採取しに来ている可能性もあるという。

(2021年5月12日 読売新聞奈良版より)

【1】「春の女神」と呼ばれる生き物の名前を書きましょう。

Blank box for writing the name of the butterfly.

【2】なぜ川上村で「春の女神」が見られなくなったと考えられますか。2つ以上書きましょう。

Large blank box for writing reasons for the butterfly's disappearance.

【発展問題】あなたの住む地域にいる絶滅の恐れがある生き物を調べ、探してみましょう。

